

# 千葉県船橋市における「災害多言語支援センター設置・運営訓練結果(概要)」

- ◎ **開催日時**：平成30年8月25日(土)
- ◎ **開催場所**：船橋市立湊中学校
- ◎ **参加者**：災害時外国人支援サポーター養成講座受講者、市職員他 96名

## 取組の概要

船橋市国際交流協会では、船橋市と共催で平成19年度より災害時に言葉が通じないことで要配慮者になりうる可能性がある外国人を支援するボランティアとしての「災害時外国人支援サポーター」を養成するため、「災害多言語支援センター設置・運営訓練」を実施している。

訓練は、参加者が船橋市により設置された災害多言語支援センターのボランティアとして模擬避難所を巡回し、多言語及びやさしい日本語による、外国人被災者への支援を実体験できる内容になっている。

## 訓練の内容

### <第1段階：災害多言語支援センターの開設>

班分け（①総務班 ②情報班）

### <第2段階：災害多言語支援センターの開設>

班別に作業する。

#### ①総務班 ・センター活動者のリスト作成

- ・看板、HP・SNS掲載情報、開設チラシの作成
- ・外国人が避難している避難所の所在地、人数などの確認
- ・巡回ルート検討
- ・巡回班の編成

#### ②情報班 ・災害情報などの切り分け

- ・日本語原稿の作成
- ・多言語チラシの作成



災害多言語支援センター設置・運営訓練の様子

## 訓練の内容 (続き)

### <第3段階：避難所巡回の準備>

- ・巡回班ごとに役割を確認する

### <第4段階：避難所巡回>

- ・被災者に情報を届ける
- ・被災者のニーズを把握する

### <第5段階：情報共有と情報整理>

- ・災害多言語支援センターで被災者の状況を共有する
- ・被災者への回答を準備する



避難所巡回の様子

## 取組の成果

- ★ 実際に外国人住民に避難者役として参加してもらうことにより、サポーターは一人ひとりに合った情報提供を心掛けることの大切さを学び、「やさしい日本語」及び多言語による情報提供がいかに重要であるかを認識することができた。
- ★ 避難所に避難している外国人住民を巡回し、必要な情報の伝達や、不安なことや困りごとなどの被災者ニーズの把握を行うなど、実践的な訓練を通して、今「できていること・できていないこと」を再確認することができた。
- ★ この訓練には、市外からも多くの多文化共生マネージャーが参加しており、市域に限定されない広域的な顔の見える関係を構築する機会となった。